

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2017年12月18日～2017年12月24日】

〔当地報道をもとに作成〕

平成29年12月26日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【南オセチア】

▼第83回IPRM会合(19日)

・エルグネティにて第83回IPRM会合が開催された。参加者は2016年6月からツシンヴァリで拘束されていたギウナシヴィリ氏の解放を歓迎。参加者は、拘束事案が減っており、行政境界線付近の最近の状況はコントロール下にあると評価した。軍事訓練、鉄条網などの設置が住民の生活に与える影響、行政境界線付近の農地の灌漑をめぐる協力などについて議論された。

・次回会合2018年1月24日の予定。

▼2018年予算(19日)

・「南オセチア共和国議会」が2018年の予算を承認。歳入7,670百万ルーブル(130.8百万ドル)。うち6,600百万ルーブル(112.4百万ドル)がロシアからの経済支援で、4,500百万ルーブルが南オセチアの「社会・経済発展」に、残りの2,100百万ルーブルが「投資プログラム」に使用される。

2. 外 政

▼機密情報の交換・保護に関するベラルーシとの合意(18日)

・ミンスクを訪問したゴメラウリ国家保安庁長官がヴァククルク・ベラルーシ国家保安庁長官と会談し、機密情報の交換・保護に関する両国政府間の合意に署名。

・国家保安庁によれば、ジョージアは同様の合意を既に約20の欧州諸国および米国と結んでいる。

▼第10回GUAM議会会議(19日)

・トビリシにて第10回GUAM議会会議が行なわれた。ジャネリゼ外相が出席し、GUAM諸国の政治的な結束、経済発展、人的交流の強化などの重要性を強調した。

▼国会議長のポーランド訪問(18日-20日)

・コバヒゼ国会議長がポーランドを訪問。ポーランドのモラヴィエツキ首相、カルチェフスキ上院議長、クチンスキ下院議長らと会談。「モ」ポーランド首相は両国の国会間交流の重要性を強調し、ジョージアのEU・NATO加盟および主権・領土一体性に対する固い支持を表明した。

・「コ」国会議長はポーランドの両院議長と、両国会間関係の戦略的パートナー関係に関する合意に署名した。

▼ジョージア・露間の貨物の監視に関する契約(19日)

・ジョージア税務局がスイスの試験・検査企業SGSとの間で、ジョージア・ロシア間の「貿易回廊」を通過する

貨物の監視を同社が実施することに関する契約に署名した。契約はスイスの仲介によって2011年11月9日にジョージアとロシアが署名した合意の一部である。合意は3本の「貿易回廊」を通過するあらゆる貿易を監視するシステムの構築を想定している。3本の「貿易回廊」のうち、2本はそれぞれアブハジアと南オセチアを通る。もう1本はカズベギ(ジョージア)とゼモ・ラルス(ロシア)の間の国境通過点。

・契約の実施のためにはロシア側もSGSと同様の契約を結ぶ必要がある。

▼EUMM団長の任命(19日)

・ハウEUMM団長が任命された。同氏は2015年4月から副団長を務めていた。デンマーク出身の外交官で、タリン、モスクワのデンマーク大使館、国連のデンマーク代表部などでの勤務経験がある。

▼エルサレムに関する国連安保理での投票の棄権(21日)

・ジョージアは、国連安全保障理事会の緊急会合において行なわれた在イスラエル米国大使館のエルサレムへの移動を非難する決議の採決を棄権。決議は支持128、反対9、危険35で採択された。

・ジョージアはパレスチナ国家を1992年に承認し、2012年にはパレスチナを国連オブザーバー国に昇格させる国連総会決議に賛成している。

3. 内 政

▼国会による新内閣の承認(22日)

・国会は内閣の新しい編成の信任を決定。新内閣および政府プログラム「自由・迅速な発展・繁栄2018-2020」に対し、103が支持、17名が反対を表明した。

・採決に先立つ国会での答弁で、クヴィリカシヴィリ首相は、ジュネーブ会議のフォーマットを「次官級から少なくとも大臣級へ引き上げる」ために取り組んでいると発言。また、首相級での会議に自身も出席する用意があると述べた。

▼放送法の改正(23日)

・国会は公共放送局の権限を強化する放送法の改正を採択。法改正により、入札の公示が不要になる、広告の挿入枠が拡大される、放送分野の新しいプロジェクトの支援への予算使用が可能になるなど、独自の経営を行なう権限が強化された。理事会の権限は弱められた。

・公共放送局は法改正により同局の機能がより効率的になり、経済的・政治的に独立した経営が可能になると主張したが、民法各局および市民組織からは反対。野党の

みならず一部の与党議員も反対した。

4. 経 済

▼2017年1月～11月の貿易統計(18日)

・国家統計局が2017年1月～11月の貿易統計(速報値)を発表。貿易額9,563.8百万ドル(前年同期比12.9%増)、輸出額2,439.7百万ドル(同27.0%増)、輸入額7,124.1百万ドル(同8.8%増)。

・輸出相手国の内訳はEU諸国23.8%、CIS諸国42.2%。輸入相手国の内訳はEU諸国27.9%、CIS諸国29.5%。国別では貿易額の多い順にトルコ、ロシア、中国、アゼルバイジャン、ウクライナ、アルメニア、ドイツ、米国、ブルガリア、イタリア。

・日本との貿易高は輸出額6,636.2千ドル、輸入額122,022.2千ドル。

▼2017年11月の工業製品生産者物価指数(19日)

・国家統計局が発表。前月比4.3%上昇、前年同月比14.9%

上昇。

▼財務相のアゼルバイジャン訪問(22日)

・バフタゼ財務相がアゼルバイジャンを訪問し、アゼルバイジャンのアリエフ大統領、シャリポフ財務相、ジャバロフ税務相らと会談。「シャ」アゼルバイジャン財務相との会談では、二国間の貿易・経済関係の発展、両国の国内改革などについて議論された。特に税関事務の簡素化、付加価値税の還付制度の整備に注意が向けられた。

▼アナクリア深海港の起工式(24日)

・アナクリア深海港の起工式が行なわれ、クヴィリカシヴィリ首相、クムシヴィリ経済・持続的発展相らが出席。「ク」首相は、同港の建設は「21世紀のジョージアにおける最大のプロジェクトであり、ジョージアがトランジット国から製造、物流、工業の発展した国へと変化する端緒となる」と挨拶した。